

各教科等における 「令和3年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。また、徳島県GIGAスクール構想の展開を踏まえ、各教科等の特質・内容に合わせて1人1台端末を活用し、「個別最適な学び」「教科等の学びの深化」「教科等横断的な学び」を実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

本県の児童生徒に身に付けさせたい力

- ・ 文章の中心的な部分と付加的な部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを読み分けて要旨を捉えたり、問いの意図やその解決に至る経緯を正しく理解したりする力
- ・ 目的に応じて必要な情報を集めるための見通しをもって臨み、根拠として取り上げている内容が適切であるかどうかを吟味したり、また、その根拠が適切であるか理由が明確になるように自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりする力
- ・ 相手の意図を捉えたりしながら自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、場に応じた適切な言葉遣いで話したり、書いたりしながら、互いに伝え合う力

正確に読み取らせるには！！

- 問題提起の部分や重要な部分などをアンダーラインや丸で囲ませよう。



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連づけてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



目指す子供の姿

- 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使うことができる。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する活動において、目的や意図に応じて、必要な情報を選び、他者と伝え合うことを通して、自分の思いや考えを明確にしたり、深めたりして、表現することができる。
- 課題解決に向けて活動に粘り強く取り組むなかで、言葉を通じて人と関わり、言葉がもつよさを認識しようとしたり、言葉をよりよく使おうとしたりしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①言語環境の整備と継続的に取り組む場の設定

- ◇語彙を豊かにするために、教師の話、資料・書籍、掲示等を充実させる。
- ◇読書、音読、視写・聴写、短作文等、楽しく反復できる手立てを増やす。

②子供の興味・関心や必要感を踏まえ、主体的に取り組むことができる単元の構想と展開

- ◇実生活との関連を踏まえて言語活動の目的や学習課題を明確にする。
- ◇子供の実態に即して、学習過程を弾力的にし、繰り返したり取り立てたりして指導する。
- ◇学習の手引きの作成や多様なモデルの提示等指導・支援の方法を多様にする。
- ◇言葉による見方・考え方を働かせるために、子供が比較・分類・関連付け等様々な思考に取り組むよう発問や指示を工夫する。

③身に付けた国語科の資質・能力や学習内容の自覚化を図る指導の充実

- ◇多様な学習の記録(ノート、表現物、教材・教具、映像・音声資料等)が生まれるように工夫する。
- ◇「書くこと」を通して振り返りができるように、書く場面を設定し、書き方を指導する。

目指す子供の姿

- 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめることができる。
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりすることができる。
- 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとするすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①「単元を貫く問い」を設定し、知識を活用したり、技能を習熟させたりするための活動を充実

- ◇単元を通して身に付けさせたい知識を明確にして、身に付けた知識を活用する場面を設定する。
- ◇地図や統計等、各種の資料を収集し、読み取り、まとめる学習場面を設定する。

②児童が自分の考えを広げ深める対話的な学習活動の充実

- ◇自分の考えをもつ場を設定し、思考を可視化する手立てを工夫する。
- ◇目的を明確にして、資料から読み取った情報等を基に根拠を示して話し合う場面を設定する。

③児童が主体的に問題解決しようとする学習活動の充実

- ◇児童と社会との関わりを意識させる課題を設定する。
- ◇課題に対するまとめや学びの振り返りの場面を設定する。

目指す子供の姿

- 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。
- 具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて事象や問題解決の過程を簡潔・明瞭・的確に表現したり、統合的・発展的に考察したりしている。
- 算数を学ぶことの意義や有用性を実感し、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①数学的な見方・考え方を働かせることができる数学的活動の充実

- ◇「日常生活に関連した問題を解決する活動」や「算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動」等を軸とした学習活動を設定する。
- ◇各場面において言語活動を充実させ、引き出された児童の数学的な見方・考え方を顕在化させながら、筋道を立てて考察できるようにする。

②自力解決の場の設定と集団解決の場の充実

- ◇自力解決の場において児童の解決の状況を把握し、集団解決の場において児童が数学的な表現の方法を用いて問題解決を行ったり、思考の過程や結果を伝え合ったりする場を設定する。

③板書やICT活用の充実と学習を振り返る場の設定

- ◇児童の数学的な見方・考え方の成長を板書し、問題解決の過程を振り返ることができるようにする。効果的な場面においてICTを活用する。
- ◇本時の学習及びこれまでの学習や生活を振り返り、既習事項と関連を図ったり新たな問題を見いだしたりするなど、統合的・発展的に考察できるようにする。

目指す子供の姿

- 自然の事物・現象についての性質や規則性などを理解するとともに、観察、実験において器具や機器などを目的に応じて工夫して扱い、過程や得られた結果を適切に記録することができる。
- 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決することができる。
- 自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自然事象についての知識を深めたり、観察・実験の技能を身に付けたりする学習活動の充実

- ◇自然現象についての知識を深め、理解したことを適切な用語で説明する学習場面を多く設定する。
- ◇観察・実験の目的を捉えさせ、その過程や器具等の適切な操作、結果の記録の意義を理解させる。

②身近な事物・現象の中に問題を見だし、「問題解決の過程」をたどらせる学習活動の充実

- ◇身近な事物・現象の中に問題を見だし、各自が根拠のある予想や仮説を立て、考察を行う場面を設定する。
- ◇各自の考えを図やモデルを用いて科学的な筋道を立てて説明し、互いの考えを共有する場面を設定する。

③自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に思考、表現する学習活動の充実

- ◇各自が自分の考えをもち、互いに意見を交わす学習場面を設定する。
- ◇自然の事物・現象に進んで関わり、生物を愛護する態度、生命を尊重する態度を養う学習活動を充実させる。

目指す子供の姿

- 自分の思いや願いの実現に向けて、対象への働きかけや人との関わり方などを自分なりに考え、主体的に活動することができる。
- 活動や体験を通して得た気づきを言葉や絵などで表現し、他者と伝え合うことにより、気づきの質を高めることができる。
- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、学んだことを生活に生かすことができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①**学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象に直接関わる学習活動の充実**
 - ◇身近な人や社会、自然と直接関わる活動を重視し、試行錯誤したり納得のいくまで追究したりできる体験活動の充実を図る。
 - ◇各教科等との関連を積極的に図るとともに、幼児期における学びとの円滑な接続を図る。
- ②**身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、気づきの質を高める学習活動の充実**
 - ◇体験の中で気付いたことを多様な表現方法で表現する場を設定する。
 - ◇自己の考えを他者と伝え合い交流する場を設定し、自他の共通点や相違点を見付けさせる。
 - ◇気付いたことを基に考えることができるようにするため、「見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫する」などの多様な学習活動を行う。
- ③**自己の学びを振り返る場の充実**
 - ◇学習のねらいを踏まえたまとめや振り返りを行い、児童自らの学びを自覚化させ、自分自身や自分の生活について考える場面を設定する。

目指す子供の姿

- 音楽活動を通して、曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたり理解したりすることができる。
- 思いや意図に合った音楽表現をするための技能を身に付けて、演奏したり音楽をつくったりできる。
- 音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏の楽しさやよさを見いだしながら、音楽を味わって聴いたりできる。
- 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に、表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①**音楽活動の中で、実感を伴いながら知識を習得したり更新したりする学習活動の充実**
 - ◇児童が音楽から感じ取ったイメージや感情と、音楽を形づくっている要素の表れ方などとの関係を捉え、知識として習得したことを、表現や鑑賞の活動に生かすことができるような学習活動を設定する。
- ②**技能と「思考力、判断力、表現力等」の育成とを関わらせた学習活動の充実**
 - ◇低学年では音楽表現を楽しむために、中・高学年では表したい音楽表現をするために必要な技能の習得を目指す。
 - ◇音楽表現を考える過程で、思いや意図を実現するための技能を習得することの必要性を実感できるような学習活動を設定する。
- ③**児童の思いや意図を音楽表現に生かしたり、音楽のよさや面白さを見だし、曲全体を聴き深めたりすることができるような学習活動の充実**
 - ◇音楽を形づくっている要素を支えとして、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える学習場面を設定する。
 - ◇演奏して試す、何度も聴く、話し合いなどによって、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、それによって気付いたり、表現や鑑賞の活動を深めたりしていけるような指導を工夫する。
- ④**児童の学びへの意欲を引き出す指導計画の作成**
 - ◇内容や時間のまとまりを見通して指導計画を作成し、題材の中で時間を重ねていくことで、児童の興味・関心を高めていけるような導入や手立て、振り返りの工夫をする。

目指す子供の姿

- 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができる。
- 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができる。
- つくりだす喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解したり、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりする学習活動の充実
 - ◇自分の感覚や行為を通して形や色などの造形的な視点を理解する学習活動を設定する。
 - ◇材料や用具について基本的な扱い方を踏まえた上で、扱うこと自体を楽しめる活動を設定する。
- ②創造的に発想や構想をする学習活動の充実
 - ◇形や色などの造形的な視点を基に、児童の思いを大切に学習活動を重視する。
 - ◇「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図る学習場面を設定する。
 - ◇「つくり、つくりかえ、つくる」活動を重視する。
- ③作品などに対する自分の見方や感じ方を深める学習活動の充実
 - ◇自分や友達の作品、親しみのある作品等を鑑賞する場面を設定する。
 - ◇見方や感じ方について話す学習を設定し、互いのよさや個性などを尊重し合う活動を充実させる。

目指す子供の姿

- 日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①実践的・体験的な活動の充実
 - ◇直接的な体験を通して、調理や製作等の手順の根拠について考える学習活動を工夫する。
 - ◇実習や観察、実験など、それぞれの特徴を生かした適切な活動を設定し、指導の効果を高める。
- ②一連の学習過程を通して、生活の営みに係る見方・考え方を働かせる学習活動の充実
 - ◇2学年間の指導計画の中で取り上げる題材について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等のいずれの視点を重視するのかを適切に定める。
 - ◇「なぜ～するのか」と問いかけ、働きや役割について理解を深める学習活動を設定する。
 - ◇既習事項や自分の生活経験と関連付けて考え、適切な解決方法や改善方法を選び、実践に向けて計画を立てたり、考えたりできる学習場面を設定する。
- ③主体的に学習に取り組むための学習活動の充実
 - ◇学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして学びや変容を自覚できる場面を設定する。
 - ◇達成感や実践する喜びを味わうために、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定する。

目指す子供の姿

- 各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けることができる。
- 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを他者に伝えることができる。
- 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活をする事ができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①運動の楽しさや健康の意義等に気付き、主体的に学習することができる学習活動の充実
 - ◇運動や健康についての興味や関心を高めることができる学習活動を設定する。
 - ◇課題の解決に向けて自ら粘り強く考察することができる支援を充実する。
 - ◇学習を振り返り課題を修正したり、新たな課題を設定したりすることができる学習場面を設定する。
- ②運動や健康についての課題の解決に向けて、対話的に学ぶことができる学習活動の充実
 - ◇課題解決に向けた他者(書物等を含む)との対話が生じるような学習場面を設定する。
 - ◇対話が自己の思考を広げたり深めたりすることにつながるような支援を充実する。
- ③運動や健康についての課題をよりよく解決するなど、深く学ぶことができる学習活動の充実
 - ◇運動や健康についての自己の課題を見付けることができる学習活動や学習場面を設定する。
 - ◇自己の課題解決に向けた見通しが得られるような問いかけや情報提供を充実する。
 - ◇試行錯誤を重ねながら思考を深め、自己の課題を解決できるような支援を充実する。

目指す子供の姿

- 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、様々な場面において探究的な学習を進めることができる。
- 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする事ができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①学習過程を探究的にすること
 - ◇「課題の設定」では、実社会や実生活に関わる体験をすることで、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することができるよう、教師が意図的な働きかけを行う。
 - ◇「情報の収集」では、課題解決のための情報収集を自覚的に行うとともに、体験で獲得した情報をレポートなどで言語化して蓄積することにも配慮する。
 - ◇「整理・分析」では、目的に応じて、比較して考える、分類して考える、序列化して考える、類推して考える、関連付けて考える、原因や結果に着目して考える、などの「考えるための技法」を用いて思考を可視化できるようにする。
 - ◇「まとめ・表現」では、相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすることで、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚し、探究の過程が繰り返されるようにする。
- ②他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること
 - ◇体験活動を探究活動の過程に意図的に位置付けるとともに、ICTや思考ツールなどを効果的に活用しながら、互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換や交流活動など、他者と協働して課題を解決し、自分の考えを深めようとする学習活動を重視する。

目指す子供の姿

- 道徳的価値が大切であることを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断している。
- 人間としてよりよい生き方を志向している。
- 道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①学習指導過程の工夫

- ◇道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の生き方について考えを深められるよう適切に構成する。
- ◇ねらいに即した指導の手立てとなるようにする。

②発問等の工夫

- ◇多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確に行う。
- ◇児童の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童の発言などの反応を、適切に指導に生かす。

③指導方法の工夫

- ◇自分自身との関わりで、物事を多面的・多角的に考えさせるために、教材や教具を活用する。
- ◇児童の実態や発達の段階に応じた指導方法の工夫をする。

目指す子供の姿

- 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。
- 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。
- よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。
- 所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。
- 生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
- 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①「合意形成を図る」「意思決定を行う」活動の充実

- ◇議題や題材を選定・設定し、根拠を明確にして自分の考えを話したり、意図を捉えながら聞いたりして、「折り合いを付けながら合意形成を図る」「集団思考を生かした意思決定を行う」話し合い活動ができるように指導・支援を工夫する。

②「多様な考え」「自分の考え」をよりよい方向へつなげていく活動の充実

- ◇実践や体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視するとともに、次の活動に生かすことができるように支援する。

③合意形成したり、意思決定したりしたことを実践する活動の充実

- ◇合意形成したことを基に、役割を分担し全員で協力したり、意思決定したことを基に、個人として努力したりして、目標の実現を目指すよう支援をする。
- ◇児童が実践や体験を通し、集団の一員としての望ましい生き方についての認識をもつことができるよう、道徳科との関連を図った指導をする。

目指す子供の姿

- 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
- 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
- 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

- ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、児童が意欲的に活動できるよう工夫する。
- ◇児童の興味を引き、聞いたり話したりする必然性のある題材や場面設定となるよう工夫する。
- ◇既習表現を繰り返し使用する活動を多く設定し、聞くこと、話すことに十分慣れ親しませる。

②学習改善・指導改善につながる評価の工夫

- ◇単元全体を見通した評価計画を立て、授業中の見取りや振り返りカード等で児童の学習状況を把握し、個々の児童の学習の調整に向けた取組につなげる。

目指す子供の姿

- 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うとともに、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

- ◇コミュニケーションの目的・場面・状況を明確に設定し、児童が意欲的に活動できるよう工夫する。
- ◇指導者同士→指導者と児童→児童同士のように段階的にSmall Talkを取り入れ、既習表現を繰り返し使用する機会を多く設定することで、既習表現や対話を続けるための表現の定着を図る。
- ◇語句や表現を読んだり書いたりする活動は、音声で十分慣れ親しんだ後に設定する。

②学習改善・指導改善につながる評価の工夫

- ◇単元全体を見通した評価計画を立て、授業中の見取りや振り返りカード、パフォーマンステスト等で児童の学習状況を把握し、個々の児童の学習の調整に向けた取組につなげる。